知的障害を伴うASD者に有効な就労支援に関する考察
ーBWAP2によるソフトスキルのアセスメントとその支援

○横山 明子（早稲田大学大学院 梅永研究室　修士２年）
梅永 雄二（早稲田大学 教育・総合科学学術院）

１　目的

発達障害者の就労で特に課題が多いのは自閉スペクトラム症（以下「ASD」という。）であると言われている。その最も大きな要因として、コミュニケーションや対人関係上の困難さが報告されている。この困難さは、就職活動中だけでなく、就職後にも影響し、離職を繰り返す要因にもなっている[1)]。

Table1にASD者の対人関係の問題を示す[2)]。

Table 1 ASD者の対人関係上の困難さ

上司・同僚の発言が理解できない
伝えたいことを上手く伝えられない
不快な言語表現を使ってしまう
場の空気が読めず人間関係に支障がでる
自分勝手な行動をしてしまう

出典：梅永（2017）

この報告を裏付けるように、米国ノースカロライナ州TEACCH Autismプログラムの援助つき就労（Supported Employment）部門では、ASD者の離職理由の８割以上はソフトスキルに関連する内容であったと報告されている。

また、米国で行われた就労に結びつく学校教育の内容に関する研究では、就労につながる要因の一つとしてライフスキルの獲得が報告された。また、学校教育の場面で、児童・生徒の定期的・体系的にライフスキルのアセスメントとライフスキル獲得につながる支援を提案している[3)]。

ASD者の就労に関連したアセスメントの中には、前述したTEACCH Autismプログラム開発の移行アセスメントプロフィール（TTAP）がある。このアセスメントでは、ハードスキルとソフトスキルの両方を統制された空間での直接観察、家庭、学校/事業所の３つの場面で対象者を評価することができる。しかし、TTAP（TEACCH Transition Assessment Profile）は時間的なコストが高いことやアセスメントに関する知識がある程度必要なことから導入にためらいを感じる現場は少なくない。また、今日の放課後等デイサービスの実態として、アセスメントに基づいた個別の支援が行われているとは言えない。

TEACCH Autismプログラムでは、知的障害を伴わないASD者に対する就労アセスメントとしてBecker Work Adjustment Profile 2（以下「BWAP2」という。）を利用している。BWAP2は、行動観察を中心とするアセスメントのため、それほど専門性を必要とせず、利用者本人をよく知る人であれば誰でも実施可能かつ約15分で実施可能である。またそれだけでなく、「援助要求スキル」等のソフトスキルの項目が多く含まれている。

これにより、細やかに支援方法の選定やその妥当性の判断を可能にする。そして早期からのライフスキル指導に繋がる。これは、将来の就労を含めた自立の可能性を大きくすると考えられる。

よって、本研究では知的障害を伴うASD者に有効な就労支援において、ソフトスキルのアセスメントとその支援について検証することを目的とした。

２　方法

(1) 対象者

・アキナ（仮名）
・年齢：都内のA特別支援学校に在籍している生活年齢16歳（高校１年生）
・診断：知的障害を伴うASDと診断された生徒

(2) 手続き

・指導期間：20XX年YY月～20XX年YY+３月、計14回行った。
・W大学にて１セッション約50分で、週に１回の割合で行った。
・セッションでの指導開始前にTTAPとBWAP2のアセスメントを行い、ソフトスキルの課題を把握し指導目標の立案をした。
・対象生徒の目標として選定されたソフトスキルは援助要求スキルである。そのため、セッションでは課題遂行のために援助要求をする場面を設定した。

３　結果

(1) BWAP2の結果

Table2は、BWAP2の各領域の粗点、Tスコア、パーセンタイル値を示している。Tスコアを元に各領域を比較すると、「仕事の習慣/態度（HA）」が最も高く、「仕事の遂行能力（WP）」が最も低い。これは、HAに関わる項目が家庭や学校等で訓練される機会が多く、WPに関わる項目の内に現段階では未経験のものが含まれているためにこのような結果となったことが考えられる。「対人関係（IR）」では、２番目に高いTスコアが出ており、ASDの

診断を受けながらも対人関係面での支援レベルは中程度である。

Table3は、ワークプレイスメントとワークサポートのレベルを示している。全体的にある程度の支援が必要であることを示している。

Table2 各領域の粗点、Tスコア、パーセンタイル値

	粗点	Tスコア	パーセンタイル値
HA	32	56	73
IR	30	52	58
CO	31	49	46
WP	38	47	38
BWA	131	49	46

Table3 各領域のワークプレイスメント及びワークサポート

	ワークプレイスメント	ワークサポート
HA	福祉就労　高レベル	B
IR	福祉就労　低レベル	C
CO	福祉就労　低レベル	C
WP	福祉就労　低レベル	D
BWA	福祉就労　低レベル	C

(2) BWAP2を基にした支援方法の提案

視覚的構造化を用いて情報を与えることで自立して課題の遂行が可能であることがわかった。また、ワーキングメモリが少ないが、課題を繰り返し行えば手順を学習することが可能であることがわかった。

以上のことからこの対象者の指導には、視覚的明瞭化・組織化が有効であると考えられる。

4　考察

BWAP2を用いることで、どのようなスキルが必要であるか明確になり、支援目標の設定に有効である。「１点」「２点」という「芽生え」の項目を把握することで、現時点で課題や必要な支援の度合いの評価を可能にする。

加えて、学校/事業所と企業等での支援者間で共通の指標をもつことで、これまでの成長部分を把握することが可能になる。また、これらのデータや新しく獲得したスキルをまとめたサポートブックの作成を可能にしより円滑な就労移行及び継続が期待できる。

対象生徒への具体的な支援については、「必要な援助要求（WP8）」の項目で「２点（大体援助を求める）」という結果だった。援助要求スキルは、就労の場面だけでなく、生活全体で必要不可欠なスキルである。そのため、今後も継続して援助要求スキルの育成に関わる課題を実施し、援助要求スキルの獲得を目指す。

5　今後の課題

現在の日本の知的障害を伴うASD者を取り巻く特別支援学校や事業所を始めとする様々な機関では、まだ十分にアセスメントを基とした支援を行っているとは言えない。また、就労で最も課題を抱えているASD者に対して画一的な支援が行われているのが現状である。

そのため、学校や事業所等の機関だけでなく、公的な機関でもASD者を的確に支援していくためにBWAP2の研修及び導入を進めるべきであると考える。

【参考文献】
1) 梅永雄二：　発達障害者の就労上の困難性と具体的対策：ASD者を中心に.日本労働研究雑誌,2017, Vol.2017年(8月)(685)
2) 高齢・障害・求職者雇用支援機構　障害者職業総合センター研究部門：発達障害者の職業生活への満足度と職場の実態に関する調査研究.2015.
3) Wong, J., Coster, W.J., Cohn, E.S., and Orsmond, G.I. “Identifying School-Based Factors that Predict Employment Outcomes for transition-Age Youth with Autism Spectrum Disorder”. Journal of Autism and Developmental Disorders (2021) 51:60-74

【連絡先】
横山　明子
早稲田大学大学院教育学研究科学校教育専攻梅永研究室
Email: akiko.yokoyama@asagi.waseda.jp